

# 平成26年度事業報告書

平成26年4月1日～平成27年3月31日

公益財団法人全国青少年教化協議会

# 事業報告目次

## I 教化事業（公益目的事業1）

- 1 青少年健全育成推進事業 . . . . . P. 1～P. 3
- 2 公益活動推進事業 . . . . . P. 3～P. 6
- 3 臨床仏教研究所運営事業 . . . . . P. 6～P. 8
- 4 出版事業 . . . . . P. 8～P. 9

## II 表彰事業（公益目的事業2） . . . . . P. 9～P. 10

## III 災害支援事業（公益目的事業3） . . . . . P. 10

## IV 管理 . . . . . P. 10

## 事業報告書付属明細書 . . . . . P. 11

# 平成26年度事業報告

(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

## I 教化事業（公益目的事業1）

仏教精神に基づき青少幼年をはじめとするすべての人々の心身と人格の健全な向上を図る事業

### 1 青少年健全育成推進事業

#### (1) 仏教子ども会活動の推進事業

##### ①花まつり行事の推進、助成

加盟教団及び府県地区青少年教化協議会（略称・青少協）に対して、花まつり行事の推進を図った。

##### ②成道会全国こども大会の開催推進

平成26年12月8日前後の日曜日を中心に全国約50会場で開催した。

※参加者＝約10,000名（うち児童約6,000名）

※行事＝記念式典（法要・法話等）、お楽しみ会（童話、ゲーム、映画、パネルシアター、紙芝居、人形劇）等多彩な行事が各地で開催された。

※教材助成＝成道会用リーフレット（B6判、多色刷り）、成道会ポスター（A2判、多色刷り）、シャープペンシル（読売新聞社、日本テレビ放送網株式会社からの助成品）を送付、各開催会場の責任者から参加児童に手渡された。

※後援＝読売新聞社、日本テレビ放送網株式会社

#### (2) 青少幼年支援ネットワーク拡充事業

##### ①青少幼年教化活動の調査・情報収集及び発信とNPO（市民団体）との活動連携

###### 1) 青少幼年教化活動者の活動内容の調査、情報収集

日曜学校等、青少年教化活動を行っている寺院の活動状況を聞き取り調査をした。

###### 2) 青少幼年を対象にした活動及び研究に関する情報収集

青少幼年問題に関する情報を広く収集するとともに、他団体が主催する青少幼年関係の研修会等にも参加し、その活動内容を把握した。又、加盟教団等の不登校・ひきこもり関連団体に関する情報収集を行った。

###### 3) 仏教団体、仏教系大学サークルの情報収集と活動の連携

青少幼年に関する活動を行っている仏教団体、仏教系大学の児童研究会等と連絡を取り、情報交換を行い、連携事業の展開に向けて検討を行った。

###### 4) 子ども支援系NPO等との情報交換及び活動の連携

「認定非営利活動法人チャイルドライン支援センター」「公益社団法人シャンティ国際ボランティア会」をはじめ、青少幼年の健全育成や子育て支援について活動を行っているNPO、NGO、社会福祉協議会等との情報交換を促進し、活動の連携を行った。

##### ②府県・地区青少年教化協議会及び活動寺院・団体等との活動連携

###### 1) 「府県・地区青少年教化協議会代表者会議」の開催

本会と青少協との情報交換、教化活動の推進を図るため、代表者会議を開催した。

※日時＝平成26年6月11日（水）

※会 場＝東京都港区・曹洞宗檀信徒会館（東京グランドホテル）

※テーマ＝「各青少協の活動報告、今後の各青少協の活動とあり方について」

## 2) 活動協賛

第8回「ほとけさまの絵コンクール」の後援及び協賛

大阪青少年教化協議会が主催する「ほとけさまの絵コンクール」を後援し、併せて協賛した。

※公募期間＝平成26年12月～27年2月

※応募総数＝約500点

※選考委員＝久保田聖淳氏他

※入 賞＝最優秀賞他13点

※主 催＝大阪市仏教会／大阪青少年教化協議会

※後 援＝全国青少年教化協議会他

## 3) 企業社員研修会の開催協力

協力企業の要請に応じ、仏教精神に基づく実践形式の社員研修会を開催した。

※日 時＝平成26年9月2日・3日（火・水）

※会 場＝大本山建長寺（神奈川県鎌倉市）

※内 容＝読経・法話・坐禅・写経・作務・マネージメント（講義）・傾聴ワークショップ・シェアリング他

※講 師＝建長寺スタッフ・全青協スタッフ

※参加者＝株式会社よみうりランド社員 10名

## 4) よみうりランド仏舎利法要開催への協力

協力企業の株式会社よみうりランドが主催して毎年開催されている「仏舎利法要」に対して、役職員等が出  
仕し、同聖地公園にて法要を執り行った。

※日 時＝平成26年5月22日（木）

※会 場＝よみうりランド聖地公園（東京都稲城市）

## ③加盟教団等との活動提携、連携

加盟教団等からの要請に応じて講師を派遣し、講演・ワークショップを行った。又、必要に応じて資料の提供  
や情報交換を行い、加盟教団等の主催事業に参加・協力した。

### 1) 加盟教団教化部門代表者会議の開催

加盟教団等に広く呼びかけ、現代社会の諸相に対応できる教化法についての研究協議会設置へ向けて会議  
を開催した。曹洞宗からの教化事例発表を受けて、少子高齢化社会における教化活動のあり方について、  
葬儀のあり方や過疎地域での教化活動の方法について議論を深めた。

※日 時＝平成26年9月12日（金）

※会 場＝曹洞宗檀信徒会館（東京グランドホテル）（東京都港区）

### 2) 講師派遣

平成26年7月22日（火） 日本仏教保育協会夏期保育講習会（東京都）

平成26年10月16日（木） 曹洞宗静岡県第一宗務所現職研修会（静岡県）

平成26年11月12日（水） 浅草寺教養講座（東京都）

平成26年11月26日（水） 浅草寺教養講座（東京都）

平成26年12月10日（水） 浅草寺教養講座（東京都）

平成26年12月18日（木） 日蓮宗次世代育成講習会（東京都）

- 平成27年1月10日(土) 東京ビハーク「がん患者・家族語らいの会」(東京都)
- 平成27年1月22日(木) 浄土宗ともいき財団電話相談員振り返り研修(東京都)
- 平成27年3月26日(木) 日本仏教教育学会第2回公開研究会(東京都)

3) 加盟教団・関係諸団体主催式典等への参加及び協力

- 平成26年5月5日(月) 孝道教団副統理就任祝賀会(神奈川県)
- 平成26年7月18日(土) 日本仏教教育学会第23回学術大会(東京都)
- 平成26年8月5日(火) 曹洞宗書道展(東京都)
- 平成26年10月21日(火) 公益社団法人全日本仏教婦人連盟大会(東京都)
- 平成26年12月8日(月) 浅草仏教会創立75周年記念式典・成道会(東京都)
- 平成26年12月9日(火) 聖観音宗管長猊下本葬(東京都)
- 平成27年1月20日(火) 公益社団法人日本仏教保育教会新年祝賀会(東京都)
- 平成27年1月29日(木) 公益財団法人全日本仏教会新年懇親会(東京都)
- 平成27年2月13日(金) 公益社団法人全日本仏教婦人連盟修正会(東京都)
- 平成27年3月14日(土) 全国てらこやネットワーク「てらこや創造イベント」(東京都)

(3) 教化活動広報事業

①インターネットによる情報収集及び発信

公式ホームページやブログ、フェイスブック等各種ソーシャルメディアを利用して青少幼年問題や活動者に関する情報を収集し、全青協の活動情報と合わせて情報の発信を行った。

②TV番組の企画協力

現代人に心の安らぎを提供することを目的に、関係テレビ局が企画制作を進める4K対応の新番組に対して情報提供等を行い制作へ向けての協力を行った。

③「Web現代名僧墨蹟展」の運営

伝統仏教各宗派管長、大本山貫首をはじめとする高僧・名僧、また、茶道家元ら文化人より寄せられた書画作品をホームページ上に掲載し、広く一般の人々が心の安らぎや豊かさを感じ得るように試みた。

## 2 公益活動推進事業

(1) てらネットEN関連事業の実施

①不登校・ひきこもり当事者の家族を対象とした親学セミナーの開催

「寺子屋ふぁみりあ～ひきこもり状態にある当事者の家族(親)のためのセミナー～」

全国に100万人いるともいわれるひきこもり当事者。全青協はこれまでひきこもりや不登校の問題に継続的に取り組んできたが、平成22年度からは、ひきこもり当事者の家族(親)に向けてのセミナーを実施している。セミナーでは現場経験が豊富で専門的な知識を有する講師を招いての講義、又、仏教的な体験を通じて精神的な安定が得られるように、読経や法話、慈悲の瞑想などを行っている。そして参加者同士によるグループトークの時間を設け、相互の心情に共感することで各自の孤立感を軽減している。平成26年度は昨年度に引き続き、浄土真宗本願寺派「御同朋の社会をめざす運動」東京教区委員会との共催により平成26年5月より月1回の頻度で全11回開催した。

※会 場＝築地本願寺（東京都中央区）

※主 催＝本財団、浄土真宗本願寺派「御同朋の社会をめざす運動」東京教区委員会

第1回：平成26年5月1日

○演題「小さなほんき・静かなファイト」

○講師 和田 重良（NPO法人くたかけ会主宰）

第2回：平成26年6月12日

○演題「本当のしあわせ」

○講師 柳川 真理子（「自死・自殺に向き合う僧侶の会」共同代表）

第3回：平成26年7月3日

○演題「ひきこもる人たちの気持ち ～支援を巡る最近の状況～」

○講師 池上 正樹（ジャーナリスト）

第4回：平成26年8月7日

○演題「長期化する「ひきこもり」へのアプローチ」

○講師 石川 清（ひきこもり訪問サポート士）

第5回：平成26年9月4日

○演題「仏さまの願いに生きる」

○講師 西原 祐治（浄土真宗本願寺派西方寺住職）

第6回：平成26年10月1日

○特別プログラム 建長寺遠足

○「座禅、写経などの体験を通じ、ご自身の心の内をじっくりみつめてみませんか」

第7回：平成26年11月6日

○演題「親子のあり方とは」

○講師 自助グループ「シンシア」元スタッフ3名

第8回：平成26年12月4日

○年末 お坊さんたちと語る会

○参加者 各宗派僧侶他

第9回：平成27年1月8日

○演題「「問い」という恵み」

○講師 松本 智量（浄土真宗本願寺派延立寺住職）

第10回：平成27年2月5日

○演題「依存と自立」

○講師 田中 剛（精神保健福祉士）

第11回：平成27年3月5日

○演題「明日を豊かに生きるために」

○講師 神 仁（全青協主幹）

## ②「寺子屋ふぁみりあ」のブログ及びホームページの運営

ひきこもり状態にある当事者の家族向けのセミナー「寺子屋ふぁみりあ」の講演内容等を広く一般に発信し、この問題についての啓発を図るとともに、参加者以外の同じ問題を抱える家族（親）が認識を共有し、問題解決・軽減の一助となることを期してブログ及びホームページを運営した。

### ③就労支援プログラムの実施

「ご縁つながり隊」の運営

ひきこもりやニートの当事者が社会参加するための足がかりとして、就労支援活動を行った。

※日 時＝平成26年5月より週1日程度

※会 場＝全青協事務局

※内 容＝機関誌『ぴっぱら』の発送作業等の軽度な作業及びPCを使った事務作業をしながら、当事者が他の当事者や本財団職員と会話を交わすことで、コミュニケーション能力及び作業スキルの向上を目指した。

### ④相談窓口の設置・運営

1) 不登校やひきこもり、自死念慮など青少年やその家族が抱える悩みに対応すべく、全青協内に電話相談窓口を開設し、当事者や家族に対してカウンセリングを行った。又、併せて電話相談窓口の開設を希望する青年僧をOJT形式の研修方法により育成した。

2) こころの相談室の運営

全青協内に不登校や非行、ひきこもり、精神疾患等の悩みを抱える当事者やその家族を対象とした来所相談室を開設。通常の電話相談では対応できない場合等に随時面接を行った。

3) 貧困母子家庭児童および自死遺児支援プログラムに関する調査

子どもを持つ家庭の貧困率上昇や近年の自殺者の増加傾向に伴い、貧困家庭児童及び自死遺児支援プログラムに関して継続的に調査を行った。特に被災地における現状の把握に務め、あおぞら奨学基金をはじめとする支援活動につなげた。又、不登校やひきこもり、自死念慮、児童虐待、DV、発達障害他、青少年や親等が直面する多様な問題に対して仏教情操教育をベースに当事者をサポートする「子ども家庭支援センター（仮称）」の開設に向けて調査を行った。

### ⑤浄土宗ともいき財団（旧：浄土宗報恩明照会）「心といのちの電話相談室」開設事業協力

浄土宗ともいき財団が「心といのちの電話相談室」を開設するにあたり、企画、運営、研修に関して協力をを行った。特に研修に関しては、講座の内容及び講師の選定、全青協スタッフの出講を含めて全面的に協力した。

※開設日程＝平成26年4月1日（月）～（以降毎週月曜日午前10時～午後4時）

※会 場＝東京都港区・明照会館内

### ⑥「てらネットEN」世話人会および連絡会議の開催

平成26年度てらネットEN連絡会議を開催し、てらネットENに加盟する寺院・団体の代表者が参加した。

又、外部講師を招き児童養護（社会的養護）に関する現状の把握に努めた。

※日 時＝平成26年12月1日（月）

※会 場＝曹洞宗檀信徒会館（東京グランドホテル）

※議 題＝てらネットEN加盟各寺院・団体の活動の現況報告及び今後の活動の方向について

※講 師＝高橋 亜美

（児童養護施設や自立援助ホームを退所した若者たちのアフターケア相談所「ゆずりは」所長）

※演 題＝社会的養護の現状とアフターケア事業の実情、支援の可能性について

### ⑦てらネットENパンフレット・小冊子の配布

てらネットENでは、ひきこもりの問題について正しい理解がなされて支援の輪が広がり、寺院等においては当事者や家族からの相談に対して適切な対応をするための一助となり得ることを期して、ひきこもりに関する基礎的な知識や対処法等を掲載した小冊子を、加盟教団・青少協・不登校ひきこもり支援団体等の要請に応じて配布した。

### (2) 「ぴっぱら国際児童基金」の運営

公益社団法人全日本仏教婦人連盟と共同で、ワラナシ（ベナレス）等におけるストリートチルドレンやスラムにて暮らす子どもたちを対象に、チャイルドサポーター（里親）制度の運営（56人の支援）を行った。又、サルナートにおける無料診療所の開設、被虐待児童のシェルターの運営、校舎の建設（4教室の新設）他、北部ラダックにおいても、教育を受けることのできない遊牧民の子どもたち等を対象に、教育・福祉・医療の面で支援を行った。

※現地スタディツアー＝平成26年11月17日（月）～25日（火）

## 3 臨床仏教研究所運営事業

### (1) 臨床仏教師養成プログラム

—仏教師は現代社会のなかで人びとのこころにどのように寄り添うことができるのか—

#### ①第1期 臨床仏教師養成プログラム

##### 1) OJT（臨床実習）課程

臨床仏教師養成プログラムの座学（公開講座）・ワークショップ課程を平成25年度に修了し、考査を経た受講者が平成26年6月より6カ月の期間内に100時間以上の臨床実習を行った。

##### 2) 台湾特別実習

台湾大学附属病院緩和ケア病棟において、臨床仏教師を目指す実習生を対象とした30時間の特別実習を行った。又、希望者を対象に慈濟会病院緩和ケア病棟の視察も行った。

※平成26年9月29日（月）～10月4日（土）

##### 3) 第1期臨床仏教師認定

平成27年1月28日（水）に最終考査を実施し、第1期臨床仏教師の認定者が決定した。

※認定式は平成27年4月21日（火）に開催。

#### ②第2期 臨床仏教師養成プログラム

##### 1) 座学（臨床仏教公開講座）開催

「自死防止」「ターミナルケア」「青少年の問題行動・ひきこもり」「過疎化・孤立化」「災害と仏教」等、現代社会における臨床的テーマを取り上げ、10月より原則隔週にて全10回の連続公開講座を開催した。

※会場＝大正大学

第1講：平成26年10月15日

○演題 「日本人の死生観—臨床仏教入門—」

○講師 島 進（上智大学グリーンケア研究所所長）

第2講：平成26年10月29日

○演題 「こころを聴く—「カフェ・デ・モンク」の活動」

○講師 金田 諦應（傾聴移動喫茶 Café de Monk主宰）



第3講：平成26年11月5日

○演題 「旅のおわりに—医療者が語るターミナルケア—」

○講師 林 茂一郎（立正佼成会付属佼成病院緩和ケア科部長）

第4講：平成26年11月19日

○演題 「若者のこころの奥に潜むもの—問題行動とその背景を探る—」

○講師 楠山 泰道（青少年こころの相談室室長）

第5講：平成26年12月3日

○演題 「安心して悩める社会を—仏教者の自死防止ネットワーク—」

○講師 柳川 真理子（「自死・自殺に向き合う僧侶の会」元代表）

第6講：平成26年12月17日

○演題 「現代版・てらこや教育の実践—お寺と地域の協働の可能性—」

○講師 池田 雅之（NPO法人 鎌倉てらこや顧問）

第7講：平成27年1月7日

○演題 「生きるってなんだろう？—若者の悩みに寄り添う仏教—」

○講師 根本 紹徹（いのちに向き合う宗教者の会代表）

第8講：平成27年1月21日

○演題 「「宗教なき時代」に—過疎化・孤立化に向き合う—」

○講師 袴田 俊英（心といのちを考える会会長）

第9講：平成27年2月4日

○演題 「仏教チャプレンの役割—生老病死の現場に関わる仏教者—」

○講師 千石 真理（心身めざめ内観センター主宰）

第10講：平成27年2月18日

○演題 「現代における臨床仏教師の使命」

○講師 神 仁（臨床仏教研究所上席研究員）

## （2）臨床仏教師（仏教チャプレン）資格認定制度に関する調査

本年度も引き続き、教育・福祉・医療等の臨床現場において、仏教精神に基づいた心理的・精神的ケアを行うことのできる臨床仏教師の資格認定制度運営に関する国内外での調査・準備を進めた。特に仏教福祉系の施設や団体、病院等を訪問し、情報交換するとともに、臨床仏教師の活動の場を開拓することに努めた。

平成26年4月26日（土）高応寺癌カフェ（埼玉県）

平成26年4月28日（月）普門院診療所（栃木県）

平成26年7月9日（水）～16日（水）Institute of Buddhist Studies、California Pacific Medical Center、  
禅ホスピスプロジェクト（サンフランシスコ）、ナロパ大学、Boulder  
Community Hospital（デンバー）他

平成26年10月8日（水）特養よみうりランド花ハウス（東京都）

平成26年10月22日（水）花園大学（京都府）

平成26年10月28日（火）～30日（木）第7回チャイルドヘルプライン・インターナショナル世界大会  
（ロンドン）

平成26年12月19日（金）東京いのちの電話（東京都）

平成26年12月22日（月）普門院診療所（栃木県）

平成27年2月21日（土）東京いのちの電話（東京都）

平成27年3月12日（木）名古屋掖済会病院（愛知県）

平成27年3月13日（金）総合大雄会病院（愛知県）

### (3) 臨床仏教研究所 公式ホームページ等による情報発信

臨床仏教研究所のホームページ、ブログ・フェイスブック等各種ソーシャルメディアと連動して講座内容、調査報告、プログラム運営等に関して情報の発信を行った。

### (4) 臨床宗教教育ネットワークの開催

東北大学、上智大学、龍谷大学3大学と協働し、臨床仏教師及び臨床宗教師の育成プログラムに関する情報共有を図るネットワーク会議を開催した。又、海外の教育機関との活動連携について模索した。

平成26年9月7日（日）上智大学（東京都）

平成27年3月23日（月）上智大学（東京都）

## 4 出版事業

### (1) 機関誌『ぴっぱら』の発行状況

#### ①月別発行部数

月	部数	月	部数	月	部数	月	部数	月	部数	月	部数	平均発行部数
5-6	6,200	7-8	9,000	9-10	7,100	11-12	6,000	1-2	6,100	3-4	6,700	6,850部

#### ②『ぴっぱら』「特集」テーマ一覧

月	テ　　マ
5-6	原発事故を子どもと共に生きていく　—　福島の子どもは、いま
7-8	子どもホスピス　—　いのちのかがやきを求めて
9-10	子どもとインターネット　—　「ケータイ」のなかの性
11-12	「毒母」と呼ばないで　—　依存する親とならないために
1-2	見直しませんか、ふたりの関係　—　「夫婦力アップ」の秘訣とは
3-4	自立援助ホームからみた子どもの虐待と支援　—　あすなる荘の取り組みから

### (2) 書籍・教材発行と調査及び研究、広報

青少幼年向けの各種教材を発行。花まつりぬりえ、花まつりシール、風船、ポスター及び甘茶クッキー等を頒布した。

#### ①教材等の製作

##### A) 甘茶クッキー

甘茶クッキーを「おかし屋ぱれっと」（障がい者の自立支援を行うNPO法人）と共同開発し頒布した。

## ②書籍・教材の調査及び研究

今後の出版事業につないでいくために、青少年関係の出版物並びに教材等を調査・研究した。

## ③出版物・教材の広報活動

出版物は会員以外への販路を開拓するべく、頒布活動に力を入れ、教材は成道会、お盆、花まつりをはじめとして、あらゆる機会を利用して、DM、チラシ等で広報した。

## II 表彰事業（公益目的事業2）

青少幼年の健全育成に尽力し、社会の情操教育振興に功績のあった個人及び団体を表彰する事業

### （1）『正力松太郎賞』の実施

仏教精神に基づき、長年にわたって青少幼年の宗教情操の育成に尽力して顕著な実績をあげ、今後も活躍が期待される個人・団体に本賞を授与した。

#### ①「第38回正力松太郎賞」の表彰

※受賞者

（本賞）

○宗蓮寺子ども会

〔代表・垣本孝精師／日蓮宗宗蓮寺住職／岡山県岡山市〕

○アジア仏教徒協会 ASIA FUND「ABAミャンマー子ども基金」

〔代表・茨木兆輝師／曹洞宗西蓮寺東堂／長崎県佐世保市

牛尾日秀師／正法事門法華宗法主／佐賀県唐津市〕

※後援＝読売新聞社、日本テレビ放送網株式会社、株式会社よみうりランド、株式会社報知新聞社

※表彰式＝平成26年5月26日（月）

※会場＝東京都港区・曹洞宗檀信徒会館（東京グランドホテル）

#### ②「第39回正力松太郎賞」の公募と受賞者の決定

平成26年9月公募開始、同年12月15日締め切り。

※選考会日時＝平成27年3月31日（火）

※選考会場＝東京都港区・曹洞宗檀信徒会館（東京グランドホテル）

※受賞者

（本賞）

○観乗寺土曜会 影絵劇団もぐら座

〔代表・藤田英道師／浄土真宗本願寺派観乗寺住職／熊本県上天草市〕

○楠山泰道 師

〔日蓮宗大明寺住職／神奈川県横須賀市〕

※後援＝読売新聞社、日本テレビ放送網株式会社、株式会社よみうりランド、株式会社報知新聞社

※表彰式＝平成27年6月1日（月）

※会場＝東京都港区・曹洞宗檀信徒会館（東京グランドホテル）

## (2) 優秀表彰の実施

情操教育を目的とした書道・絵画等を通じ優秀な成績をおさめた児童・生徒への表彰、又、青少幼年の健全育成に貢献した個人及び団体を表彰した。

- ・曹洞宗主催「第48回青少年書道展」を後援、全青協賞を授与。
- ・大正大学書道研究部主催「第63回全国書道展」を後援、全青協賞を授与。
- ・炎天寺一茶まつり委員会主催「平成26年度全国小中学生俳句大会」を後援、全青協賞を授与。

## Ⅲ 災害支援事業（公益目的事業3）

国内外の自然災害に際する緊急支援及び復興支援を行う事業

### (1) 東日本大震災復興支援事業

仙台災害支援センター等を拠点として、被災地の方々、特に子どもたちや高齢者の方々のニーズに応えるべく、精神的なケアにつながる支援を主とした活動を行った。

#### ① 高齢者の孤独死・自死防止活動

被災地の仮設住宅を定期的に巡回しながら、集会所や談話室でハーブティーサロンや生け花会などを開催、又スタッフによる歌のコンサート、バルーンアート等の催し物を行い、孤立しがちな高齢者の心身のケアに継続的に取り組んだ。

#### ② 被災児童を対象とするトラウマケア活動

仮設住宅や学童保育会場等で子ども会を開催しながら、被災児童の心の状態の把握に努め、遊びやレクリエーションを通じたトラウマケア活動に取り組んだ。

#### ③ 「あおぞら奨学基金」の運営

平成24年度に一般財団法人杉浦ブラムチャリヤ、公益社団法人全日本仏教婦人連盟と協働して「あおぞら奨学基金」を設立。東日本大震災で就学困難になった高校生のための給付型奨学金支給事業を基金事務局として運営を行った。平成26年度は宮城県石巻市の高校生48名を対象に、月々1万円の奨学金を給付した。

### (2) 国内外緊急支援事業

#### ① 広島土砂災害緊急支援事業

平成26年8月に発生した土砂災害における被災者支援として、被災児童のトラウマケアを中心としたところのケアスタッフを養成し、ひろしまチャイルドラインと協働して広島県内の子どもたちを対象としたフリーダイヤルによるところの電話相談窓口の開設した（平成27年度も継続）。又、平成27年5月・10月に開催予定の子ども会キャンプの準備を行った。

## Ⅳ 管理

### (1) 組織の充実・拡充

理事会及び評議員会、青少協代表者会議の席上、会員拡充への協力を依頼した。又、各宗派の教化研修会等において全青協の資料を配布し入会案内を行った。

会員数は平成27年3月末日現在、881名。内訳は「会員」373名、「活動会員」267名、「賛助会員」213名、「特別賛助会員」28名。

## 平成26年度事業報告付属明細書

平成26年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する付属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

平成27年3月  
公益財団法人全国青少年教化協議会